

新社屋外観



SRホールディングス 本社新社屋完成

開放空間で生産性向上を目指す

総合物流事業の昭和陸運(株)を中核とする持ち株会社であるSRホールディングス(株)(福山市引野町4-1-18、荒木栄作社長)の本社新社屋が11月22日に完成。物流・不動産・商事・サービス・映像・アパレルなど異業種から形成される企業体にふさわしい、

性を受け入れる「開放的で包容力のある」建築デザインとした。

社屋は2018年1月から着工、デザインは荒木社長の意見が取り入れられ、白を基調としたモダンなデザインとなっている。新幹線から見える位置にあり、成長拡大を続ける同社のランドマークとして重要な役割を果たす。社屋は1558㎡の敷地に鉄骨3階建て延べ床面積1650㎡の建物で、総工費は5億円規模。

1階フロアはグループ企業のアパレルや商材などが展示されるショールーム、社内外の人が利用可能な100人規模のセミナールームがある。インタビュボードや荒木社長の手による油絵、同社の事業内容や将来図をイメージした2m角の福山市のジオラマも展示。グループ各社の管理本部が入る2階のオフィスは30人規模で、仕切りがなく、ガラス張りの開放的な空間となっている。

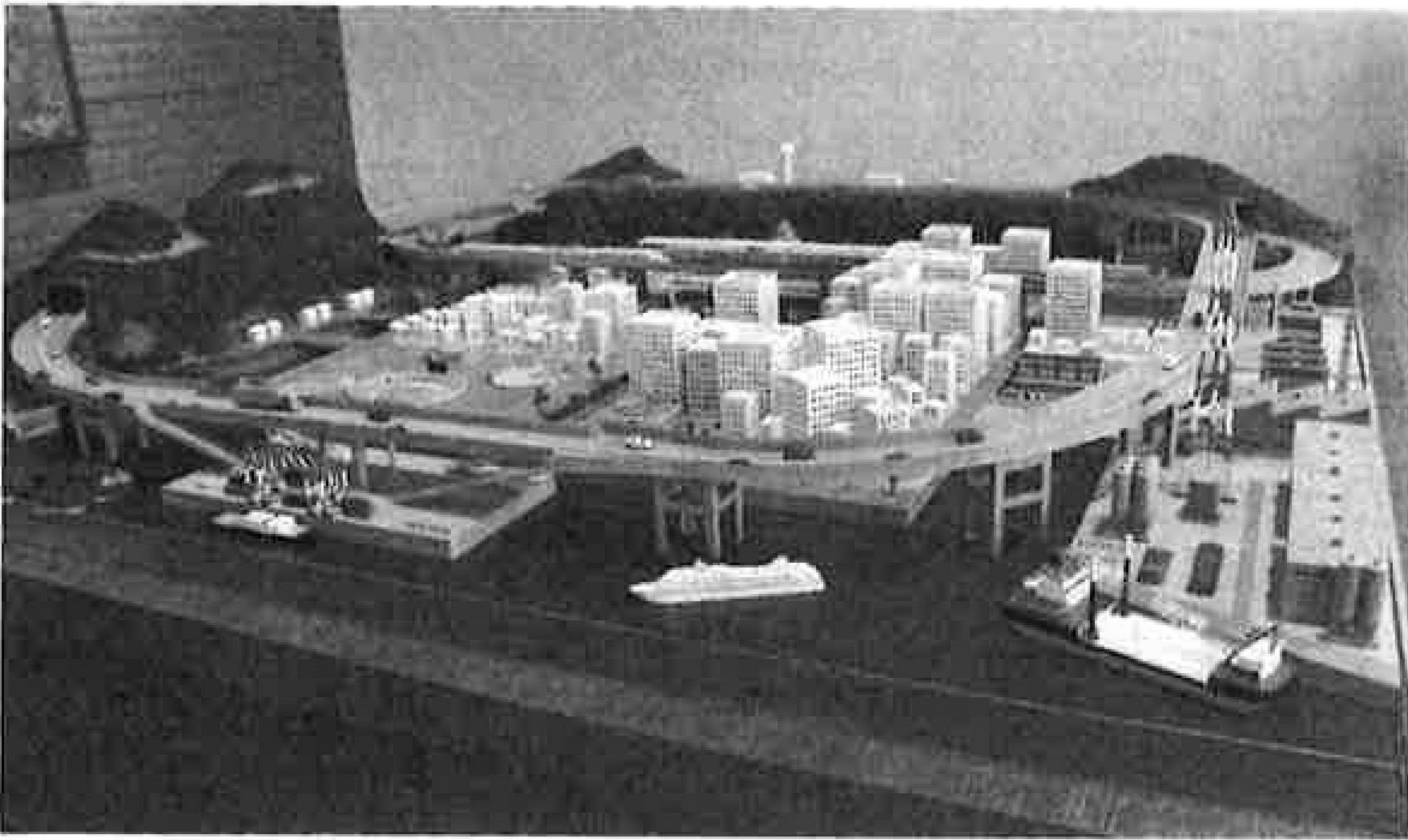
社内ではジャズをはじめとした音楽を流し、社員がリラックスして業務に取り組める環境を整える。各部屋には「ガウディ」「ダーウィン」「ダヴィンチ」「ピカソ」などの名称が付けられ、社内の共通言語として愛着が湧くように工夫。12月25日(火)には、竣工祝賀会が行われる。

ほかには既存建物の3階部分にカフェ

風にリノベーションした食堂を設け、福利厚生面も充実させる。

今後について荒木社長は「近年の成長戦略によって拡大した事業や組織を見つめ直し、原点回帰の年にしたい。グループ企業一つ一つの事業の柱を強固にし、さらなる体質改善を図っていきたい」と話す。またグループ間の相乗効果を発揮するための部署「グループ戦略室」を設置し、人的交流やソフト面の生産性向上を目指す。

問い合わせTEL084・941・815
OSRホールディングス



1階に展示されるジオラマ